



学校体育功労賞を受賞して

天草市立河浦中学校 校長 田中 新作

この度は、学校体育功労賞という大変名誉な賞の受賞の栄に預かり、光栄に思っております。併せて、多くの方々のご出席のもと、盛大に祝賀会を開催していただき、重ねて感謝申し上げます。

祝賀会を迎える日まで、その後も、多くの人から「おめでとう」というお祝いの言葉をかけていただきました。このことから、この賞の重さを実感しているところです。

ただ、この賞を受賞させていただいたのは、決して自分の力ではないことは十分承知しています。多くの先輩方から色々な役を与えていただき、色々な場で仕事をさせていただきました。加えてこれまで勤務した職場の同僚、共に励まし合った同輩、こんな私を理解し協力してくれた後輩の皆さんの力添えなしにはこの賞の受賞はありませんでした。これまで関わっていただいた、縁ある全ての方々に心から感謝申し上げます。

子どもの頃、親から「何でん、一人ではでけんぞ。何を成すにも人様のお陰ぞ。だからありがたいという気持ちがないといかんとぞ。」とよく言われました。まさしく人様のお陰、皆様のお陰です。

中学校時代の体育の先生から「勉強で一番になっても新聞に載らんバツテン、お前は運動で新聞に名前が載る。これは、何よりの親孝行だぞ。」と言ってもらいました。その言葉が嬉しくて、体育の先生になることを決意しました。昭和57年に採用となり、体育・部活動にのぼせた38年間でした。多くの出会い、喜びがあり、とても有意義な教師生活でした。

私が体育教師としてモデルにしており、追い求めている人に高橋忠男先生がいらっしゃいます。教師道、体育道を突き詰めておられる哲学者だと私は思っています。多くの学ぶ言葉や、支えていただいた言葉があります。

その中に「体育教師として、指導上一番得意なことは何かと問われたら何と答えるか。体育の授業、部活動指導は当たり前である。学級経営が一番得意と言えるようになりなさい。」「クラスには、色々な生徒がいる。性格上合わない生徒もいるかもしれない。しかし、クラスに苦手な子を作ってはいけない。」といった内容の言葉を頂きました。私の教師生活の中で、常に念頭にあった言葉です。その結果、私の中に38年の経験を通して培われた一つの信念があります。それは「人は変わる。必ず変わる。思いは通じる。必ず通じる。ただし、真剣に、必死で関われば。」ということです。

多く子どもたちに夢と希望や喜びを与え、多くの感動を与えてくれる体育が、中体連が、ますます発展することを心から願っています。